

Urban Design Lab Magazine

「新」世界遺産を巡る —夏休み旅行記：平泉・小笠原編— Visit "NEW" World Heritages! -Hiraizumi and Ogasawara Islands-

text_muramoto

現地調査に建築学会、APSAにワークショップと夏休みも精力的に活動していた研究室メンバー達ですが、PJ以外でも、長期休暇を利用して国内外を問わず様々な地域を訪れました。その中から、今年6月に登録された「新」世界遺産を訪問した三浦と前川に、それぞれ「文化(平泉)」「自然(小笠原)」という切り口で世界遺産訪問の感想・知見を語ってもらいます!



平泉 — 横手市と歴史的につながる「堀」

空間計画研 M2 三浦 詩乃

平泉の世界遺産登録を受け、秋田県横手市が来訪者拡大を目指す検討に力を入れています。市が目にするのは、平泉と横手を歴史的につなぐ“堀”です。横手の清原氏がなした堀と、構造の似た堀を奥州藤原氏初代・藤原清衡が金色堂境内に残しています。背景にあるのは彼が幼少期に清原氏のもとに引き取られたこと。そのため彼は源義家による残酷な殺生がなされた後三年合戦を経験し、平泉にて浄土思想の都市計画を行ったとされます。“堀”はこのような思想的な影響だけではなく、横手・清原氏の空間計画・土木技術を、清衡が受け継ぎ平泉の地に実現させている可能性を提示しています。

2つの“堀”を中心に、横手と平泉の空間構造のリンクが読みとられつつあり、1つのまちの中に完結せず、横手・平泉のまちを対にみていくやり方は興味深いところです。また、横手市文化財調査担当者達の情熱のこもった説明は必聴です。平泉への呼びかけ・横手のまちの人へのレクチャーも始めるようで、今後の人を巻き込む動きも注目されます。



次の「新」世界遺産はどこ?

1993年の法隆寺・姫路城の登録をはじめとして、今年度の平泉・小笠原の登録により計16件となった日本の世界遺産(自然遺産・文化遺産合計)。日本の次の「新」世界遺産候補として暫定リストに掲載されている物件はなんと12件!今のうちに巡っておくと良いかも知れません。

暫定リスト登録物件

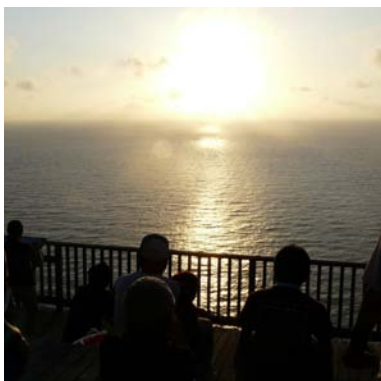
- ① 武家の古都・鎌倉
- ② 彦根城
- ③ 富岡製糸場と絹産業遺跡群
- ④ 長崎の教会群とキリスト教関連遺産
- ⑤ 飛鳥・藤原の宮都とその関連遺産群
- ⑥ 富士山
- ⑦ 国立西洋美術館本館
- ⑧ 九州・山口の近代化遺産群
- ⑨ 宗像・沖ノ島と関連遺跡群
- ⑩ 北海道・北東北を中心とした縄文遺跡群
- ⑪ 百舌鳥・古市古墳群
- ⑫ 金を中心とする佐渡鉱山の遺跡群



▲平泉中尊寺敷地内の堀



▲横手・大鳥井山遺跡の空堀



▲三日月山からの夕日



▲南島から見た海と父島



小笠原諸島 — 自然豊かな「東京都」

text_maekawa

9月初旬、小笠原諸島父島を訪れました。島へ行き方はただ1つ、片道2.5時間の船旅。ヨーロッパへ行くよりも遠い、東京都の島。

2011年6月に世界遺産に登録された小笠原諸島ですが、じつは区域のほとんどが集落を除く陸域とのこと。海で過ごした時間が多く世界遺産登録の根拠となった固有種などはあまり見ることはできなかったのですが、海ではきれいな色の魚達や、珍しい地層?など貴重な風景を見ることができました。

なかでも、山頂の展望デッキから見た水平線へ沈む夕日や、月明かりしかない夜空の意外な明るさ、群青色(ポニブルーというらしい)の澄んだ海には、東京では意識していないような、本当に人間の手にはおえない美しさがあることを感じさせてもらいました。

島には常連の観光客や一人旅の若者も多く、名物・島ラム酒復活の立役者との居酒屋での出会い(!)などもあり、あたたかい人々の雰囲気の中なかでリフレッシュした3日間でした。

舟で見る江戸、芸術で見る横浜

See Tokyo and Yokohama with different perspective

復活第4弾となるデザイン研社会科見学部！今回は、「神田川舟下り体験」と「横浜トリエンナーレツアー」です！

神田川舟巡り

text_omori

10月8日(土)、マガジン編集部と黒瀬助教で、神田学会の主催する神田川舟下りに参加しました。法政大の岡本哲志先生による近世以降の東京(江戸)の河川、運河、河岸、橋、水事情などの解説のもと、日本橋川、神田川、隅田川、横十間川等をめぐる3時間の充実した船旅でした。

江戸の中心的交通網であった河川・運河に対していつの間にか背を向けるように建っていったビル群、震災復興後の地籍上の河岸の消滅、筑波山・富士山・江戸城天守閣の位置関係と河川からの眺望など、多岐に渡るテーマは大変興味深いものでした。日本橋川に林立する首都高の橋脚、横十間川から眺めるスカイツリーなど、河川から見る東京はどれも新鮮で違った表情を見せてくれました。



▲旧常盤橋と首都高速



▲横十間川から眺めるスカイツリー

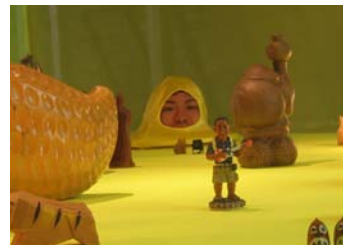


横浜トリエンナーレ&黄金町バザール

text_muramoto

9月25日(日)、2010年度卒業の黒川さんを中心としたOBの方々とともに横浜トリエンナーレ及び黄金町バザールに行ってきました。どちらも「アート」をまちなかに展開することで横浜の魅力を再発見しようという取り組みなのですが、日頃PJに取り組んでいる身としては「黄金町バザール」にたく感動しました。「黄金町バザール」は、衰退した歓楽街に点在する空き家をアート展示の場として活用し、若いアーティストによって新しい風をまちに持ち込むとともに、地元の方々の協力のもと若者と住民が協力してまちの再生に取り組むPJの一環として行われた催しで、地域のもつハード・ソフト両面の資源と「アート」という新しい要素を組み合わせたまちづくりの萌芽を感じました。

両イベントとも11月まで開催中なのでぜひ足を運んでみてください。



▲「置物体験」の出来る体験型の展示



▲高架下を活用した巨大ぬいぐるみ展示

つなごう 歴史のまちづくり 第34回全国町並みゼミ飛騨市大会

D3 松井 大輔



▲登壇する西村先生とD3の博



▲宮川町種蔵集落の文化的景観



▲学生ボランティアも活躍

9月30日から10月2日まで、岐阜県飛騨市で第34回全国町並みゼミが開催されました。全国から約400名の町並み運動家が集まり、旧交を温めるとともに、町並み保存の将来について熱い議論を交しました。都市デザイン研究室からも西村教授、永瀬助教をはじめ5名が参加し、充実の3日間を過ごしました。ゼミの中心会場は飛騨古川でしたが、平成16年に合併した神岡・宮川・河合地区でも分科会が開催され、各地域の魅力やまちづくりの実態を体感することができました。飛騨古川の「まちづくりは人づくり」というまちづくりの思想は、確実に飛騨市全体に広がりつつあり、このような人材育成を含めた地域運営の重要性を再認識できた点が、今回のゼミの成果だったように思います。来年度の町並みゼミは福岡で開催です。また1年後、お会いしましょう。

プロジェクト報告



鹿児島 KAGOSHIMA-project プロジェクト

M1 浅野 純子



▲まちなかで市役所の方と打ち合わせ

9月29日(木)から10月4日(火)にかけて鹿児島プロジェクトの現地調査を行いました。

11月の社会実験USKに向け、今回は特に回遊性効果検証の事前実験を行いました。

回遊性効果検証では、社会実験を行っていない状態での交差点の交通量を測るビデオ調査や、普段人がまちなかでどのような行動をしているのかを調べるモニター調査などを行いました。社会実験本番中、社会実験後にも同じ条件で調査を行い、回遊性の質・量がどのように変化したかを定性的・定量的に検証していきます。いよいよ本番まで1ヶ月を切り、準備も大詰めです！

Information

10月の予定

10月13日	2011年度第8回研究室会議
10月14日~16日	鞆PJ現地調査
10月17日~18日	清水PJ現地調査
10月18日~20日	五箇山PJ現地調査

編集後記

村本 健造

先日、ふわふわとしていて廃人まっしぐらの僕を見かねた(?)先輩からとても素敵な言葉を教えていただきました。「因果俱時」。自分の今の状況の原因は過去にあり、未来の自分の状況をつくり出すのは現在である。一日一日を大切に、楽しみながら18年に及ぶ学生生活の最後の半年を送りたいです。